心理社会的ケア研修セミナー　参加者募集（要予約）

2014年1月25日（土）13:30-16:30 名取市文化会館1階・会議室

参加費：2,000円（ワークショップ資機材費として）

※写真はジオラマ制作ワークショップの様子

決して忘れられない記憶

心の整理を行い、震災などによる心の傷を乗り越えていくために必要なことは何か？
誰でも簡単に取り組める心理社会的ケアの手法とは？
被災地の子どもや大人と向き合う人のために専門家が分かりやすくお伝えします

震災後、心のケアの必要性が高まっています。『心理社会的ケア』とは、震災など心に大きな衝撃を受けた際に、その忘れられない記憶と向き合い、表現して、心を整えていく手法です。欧米ではすでに広く知られ、様々な場面で心理社会的ケアが使われています。2011年3月11日の大震災で大きな被害を受けた宮城県名取市において、被災児童を対象に行なってきた心理社会的ケア。PTSD（心の傷の後遺症）の予防を目的として約2年にわたり、心理社会的ケアに携わった専門家が、名取での取り組みを例にあげながら、分かりやすく心理社会的ケアの手法をお伝えします。

被災地での心理社会的ケア～東北の大人と子どものために～
2013年5月～2014年3月
Psychosocial Care Program for Tsunami Affected Children and Adults, Japan　May 2013 - March 2014

Funded by
JAPAN PLATFORM
認定NPO法人 ジャパン.プラットフォーム

Implemented by
ニッコー nicco
公益社団法人 日本国際民間協力会

Directed by
地球のステージ
認定NPO法人 地球のステージ

お申込方法

お名前、所属、住所、電話番号、
Eメールアドレスを明記の上、
Fax (022-383-8330) または
Eメール(stageone@e-stageone.org)
お問い合わせは、認定NPO法人 地球のステージ事務局(022-738-9221)まで

講師のご紹介　宗貞（むねさだ）　研（けん）

所属：公益社団法人　日本国際民会協力会（NICCO/ニッコー）
神奈川県出身、看護師、心理カウンセラー

震災直後の2011年3月より宮城県名取市と岩手県陸前高田市において災害時緊急医療支援に従事。被災地での24時間診療や避難所での巡回診療に携わる。2011年5月末からは名取市の現地NPO法人「地球のステージ」と共同実施で、心療内科医とともに津波で被害を受けた名取市閖上地区、下増田地区の子どもたちの心のケアのため「スカイルーム」心理社会的ケアワークショップのファシリテーターとして2013年4月まで従事。

宗貞専門家によるこれまでの講演とセミナーのご紹介

- 2012年1月9日「杜の都ドルフィンドリーム（被災女性ヘルスケア支援団体）」で講演
- 2012年7月5日、同団体にて再び講演
- 2012年7月7日、神戸学院大学心理カウンセリングセンターで「震災ボランティアとこころのケア」について講演
- 2013年6月1日、TBC東北放送の公開トークセッション「復興を支える絆のカタチ」へパネリストとして出演
- 2013年6月29日、大阪府高槻市立阿武野中学校PTAで心理社会的ケアについて講演
- 2013年7月15日、石巻市で講師として心理社会的ケア研修セミナー開催
- 2013年9月21日、気仙沼市で講師として心理社会的ケア研修セミナー開催
- 2013年10月5日、京都大学で心理社会的ケアについて講演
- 2013年11月5日、陸前高田市で講師として心理社会的ケア研修セミナー開催
- 2013年11月7日、グラクソ・スミスクライン株式会社にて心理社会的ケアについて講演
- 2013年11月10日、お茶の水女子大学にて心理社会的ケアについて講演
- 2013年11月22日、岩手大学防災フォーラムで心理社会的ケアについて講演

2012年3月10日
河北新報

ラジオドラマをみんなで作った

名取市スカイルーム

津波（つなみ）の体験（たいけん）

自分の言葉で伝（つた）えたい

名取市にある愛島（めでしま）東部仮設住宅の集会室が、スタジオに早変わり。小学生13人がラジオ用のドラマを作ったのです。マイクに向かってセリフを話します。声だけの劇（げき）で、気をつけたのは「感情（かんじょう）を込めて、ゆっくり、はっきりと」。

集まったのは、今は仮設住宅などでくらす同市閖上（ゆりあげ）地区の子どもたち。毎週ここで開かれる活動「スカイルーム」の仲間です。閖上では、2011年3月11日の津波（つなみ）で家々が流され、約800人もの住民が犠牲（ぎせい）になりました。

スカイルームは地元の「地球のステージ」、京都市の「ニッコー」という団体が運営（うんえい）し、子どもたちが津波の前と後、未来（みらい）の町の模型（もけい）や、映画を作ったりしてきました。

ラジオドラマは、「星に昇（のぼ）った少年」。1月から練習が始まりました。「地球のステージ」代表で医師の桑山紀彦さん(48)が、被災地（ひさいち）で聞いた話から台本を書きました。みんなが津波の後、心やさしい子どもの「おばけ」と出会い、ふれあっていく物語。

「校庭にいたとき津波がきて、急いで校舎の3階まで走ったんだ」「中学校の屋上から、閖上（の町が流されるのを）をずっと見てた。こわかった」「お母さんとなかなか会えなくて泣（な）いたの」

ドラマには、こんな体験（たいけん）を自分の言葉で話すシーンがあります。つらくないの、と心配になりました。

「前は思い出したくなかったけど、今は話せる」と、閖上小から転校した館腰小6年の玉田礼菜さん(12)。「もしまた同じことが起きても、次はみんなが助かるように、あったことを伝（つた）えたい」

閖上小3年の伊藤留衣さん(9)は「家では津波のことを話しちゃいけないと思ってがまんしてた。でも、スカイルームで友だちにたくさん話せて元気になったよ」。

ニッコーのスタッフの心理カウンセラー、宗貞（むねさだ）研さん(35)は「気持ちを表現（ひょうげん）し、だれかに見たり聞いたりしてもらうことで少しずつ楽になり、きっと乗りこえていける」と、みんなを見守っています。ラジオドラマは春休みごろ、なとり災害エフエム「なとらじ801」で放送されますよ。